

観光立国の実現は地方(地域)から

新戦略を次々に展開

JTB取締役(Web戦略担当)
i.JTB社長
楽天執行役員 トラベル事業長
リクルートライフスタイル
執行役員 旅行領域担当

今井敏行氏
山本考伸氏
宮本賢一郎氏

この10年間で、取扱額では大手旅行会社(TTA)と並ぶ規模に成長した大手OTA(オンライン・トラベル・エージェント)。国内OTA2強の楽天トラベル・jyaran.netのトップと、大手旅行会社では突出した実績を誇るi.JTBのトップの3人にお集まりいたなき話を聞いた。

(会・本企画推進部長 江口英一)

—2015年の国内旅行市場はどうだったか?

山本 皆さんも似たトレンドだと思いますが、国内旅行が伸びた要因の一割。夏休みの需要を押上げた。首都圏においては、ふるさと割自体があまり出ていなかつたし、出張需要でバウンド需要があつかったこともあります。伸び悩んだが、地方はふるさと割を始めた。実泊数のトップ10はほとんどあるさと割が出ていた地域だった。石川県はふるさと割と新幹線効果が重なって伸びた。石川県の好調ぶりはその後も続いている。

—15年のi.JTBは、やはり、ふるさと割の効果と北陸新幹線の効果は大きかった。あとほりJTBがUSJのアトラクションに優先入場できるため、これが効いた。シルバーウィークの業

前年比だと20%弱増という

の7~9月は前年比20%増だつた。前年との違いで特徴的なのはスマートフォンからの予約の伸び。サイトへの訪問者数でみるとスマートホンが過半数になっている。実際の予約比率はスマートホンが過半数になっていたが、国内旅行が伸びた要因の一割。夏休みの需要を押上げた。首都圏においては、ふるさと割自体があまり出ていなかつたし、出張需要でバウンド需要があつかったこともあります。伸び悩んだが、地方はふるさと割を始めた。実泊数のトップ10はほとんどあるさと割が出ていた地域だった。石川県はふるさと割と新幹線効果が重なって伸びた。石川県の好調ぶりはその後も続いている。

—16年の各社の見通し

山本 楽天トラベルは16年も堅調に推移する予測している。

—ホテル客室の仕入れ状況はどうか。都市圏のホテルは、とにかく部屋がない、予約がとれない一般的に言わ

れている。山本 そういう意味では都

市圏地元では全然違った

—15年のレジャー予約

最近感じるのは、旅行予約

のオンラインへの移行はまだ

あるので、16年もしっかり

伸びていくお手伝いができる

予約の影響も大きかったと思

う。山本 15年のレジャー予約

の伸びを一番支えたのは新規

ユーチャーだった。日本国内の

インターネット旅行予約は、

まったく飽和していないと思

う。山本 来年はオンラインでの

予約が多い。オフィスで

慣れたらJCサイトから予約し

ているからだと思う。この出

張利用の方々のレジャー利用

が、平均予約金額は高くなる。

—16年のi.JTBは、前

年もまだ少ない

—16年のi.JTBは、前